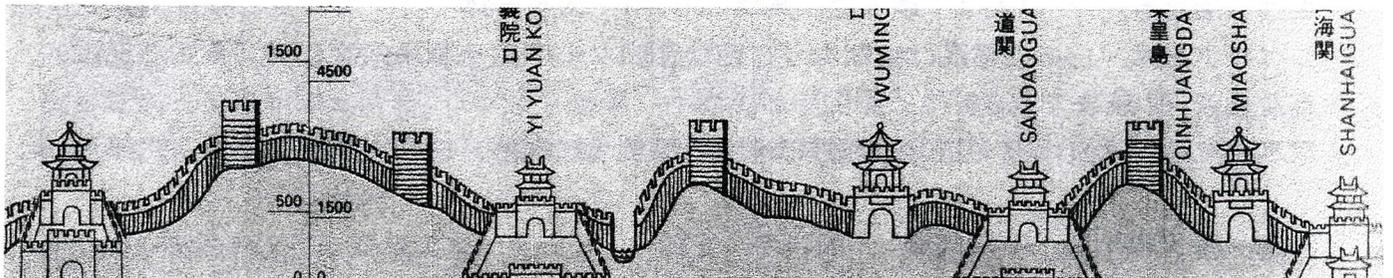


# 「100部隊」の謎 50万頭、軍馬の嘶き

2019. 5. 1 横浜かながわ県民センター  
岐阜大学 平和学 今井雅巳

○「万里の長城」を築かせたのは？



<はじめに>

< > : 北方騎馬民族の駿馬「天高塞馬肥」

「100部隊」(イチマルマル部隊) = 謎だらけの細菌戦秘密部隊 =

『日本陸軍獣医部史』 2000年3月31日 刊行 紫陽会

第5章 支那事変および大東亜戦争 (昭和12年より昭和20年終戦に至るまで)

1 起因に就ては付録近代軍事史便覧を参照されたい。

2 出征軍馬衛生史、纏まった資料がないため本書第一編七章獣医部関係機関復員記中、支那派遣軍復員に伴う獣医部業務報告の軍馬衛生統計表が代表的なものと認められるので参照されたい。(以上)

意図的に記録を残さなかったのは？ 写真：東亜防疫会議「100部隊」で 昭和15年9月

「100部隊」を伝える著作・研究論文極めて少なく、隊長・隊員の戦争責任追及も皆無

- ・『三千人の生体実験』島村 喬 原書店 1967年(昭和42年)3月
- ・『細菌戦の罪』伊ノ本 将官収容所虜囚記 三友一男 泰流社 1987年4月
- ・『証言 人体実験』松村高夫・兒嶋俊郎・江田憲治 同文館 1991年
- ・『戦争と疫病』731部隊のもたらしたもの 江田いづみ 本の友社 1997年
- ・『死の工場』隠蔽された731部隊 シェルダン・H・アリ 近藤昭二訳 柏書房 1999年
- ・『検証 人体実験 731部隊・ナチ医学』小俣和一郎 第三文明社 2003年

<馬と人の交流史>

\*馬(エクウス・キャバルス 体高140~150cm)の進化

・ヒラコテリウム・メソヒップス・ミオヒップス・メリキップス・プリオヒップス

体高 40 cm                  60 cm                  75 cm                  90 cm                  122 cm

\*故事成語

「南船北馬」「塞翁が馬」「千里の馬」「死馬の骨」「馬鹿」「驥尾に付す」「馬耳東風」「丙午」「碑肉の嘆」「瓢箪から駒が出る」「人生は白駒の隙」「お仙泣かすな馬肥やせ」「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ」

\*最高の伴侶：ワットにより蒸気機関が発明されるまで、馬は人にとり、最大の動力提供。高速移動(乗馬)、大量荷物運搬(駄馬・輓馬)、食糧(桜肉)、皮革原料、漢方薬(骨)肥料(骨)等、あらゆる分野で人類に貢献。

**\* 馬の特徴**

・ 蹄・馬齢・病気・寿命・牡馬♂牝馬♀・扇馬=去勢・耐寒耐暑・性質・知能

**< 騎兵隊 = 陸軍の花形：軍馬の活躍あればこそ >**

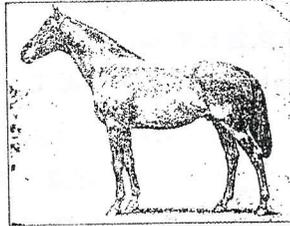
- ・ 馬は『活兵器』 = 「人は1銭5厘、馬は200円」・人馬一体
- ・ シベリア出兵「日本の軍馬は猛獣なり」西欧列強から嘲笑→軍馬の改良へ（外国馬交配）
- ・ 馬産農家（2歳まで育成）
- ・ 軍馬補充部（東京本部・川上・釧路・十勝・根室・三本木・白河・高鍋・雄基8支部）

**< 軍馬三種 >**

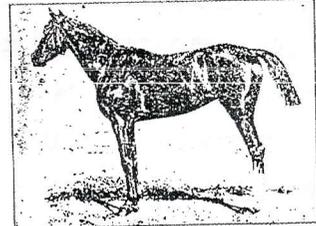
乗馬（軽種）：将校を乗せ高速移動。サラブレッド・アラブ・アングロアラブ・ギドラ

駄馬（中間種）：荷駄鞍上に90kgほどの荷物を載せて運ぶ。アングロノルマン・ハクニー・トロッター・ノニウス・フリオソー・ノーススター

挽馬（重種）：荷馬車に200kgほどの荷物を載せて挽く。ペルシュロン・ブラバンソン・クライデスデール



サラブレッド



アングロアラブ

**< 日中戦争における軍馬 >**

100万人の兵士と50万頭の軍馬

軍馬の徴集

部隊編成と軍馬

軍馬の移送・列車・輸送船

1にラッパ・2にヨーチン・3にテッチン

「テッチン」の労苦

『愛馬進軍歌』

「愛馬の日」

「軍二輜重無ケレハ則チ亡フ」『孫子』（中国古代兵書）

皇軍の後方支援軽視：「糧秣は敵に求む」=中国農民の虐殺

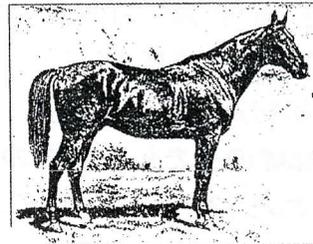
「輜重輸卒が兵隊ならば、蝶々蜻蛉も鳥のうち」

「輜重輸卒が兵隊ならば、電信柱に花が咲く」

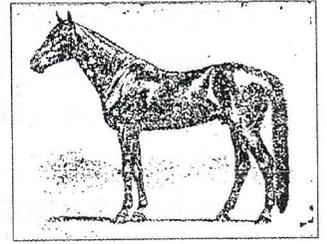
勲章受章馬「勝山号」の帰郷

\*敗戦時の軍馬の運命=帰還した軍馬は1頭もなし。

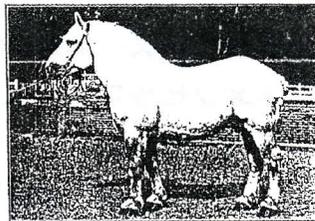
シベリア抑留での再会



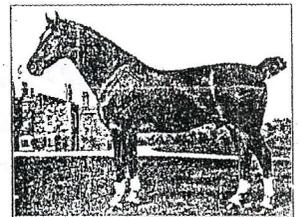
ギドラ



トロッター



代表的挽馬 ペルシュロン



代表的挽馬 ハクニー

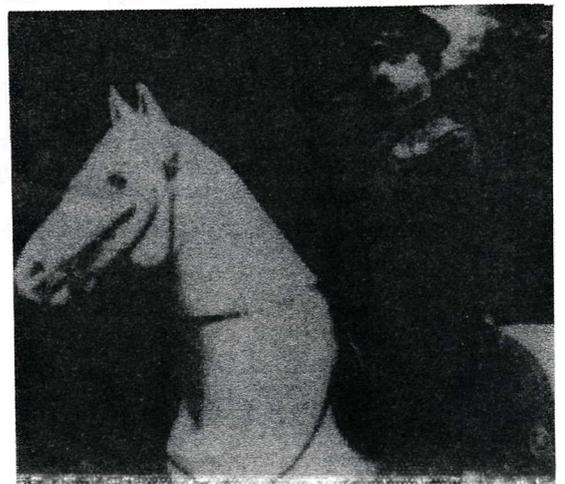
**< 電話番号1番 >**

日本各地の聯隊電話番号 = 各局番1番

東京麻布聯隊 = 2番

麻布獣医学校 = 1番

「白雪号」天皇裕仁の乗馬を飼育・管理



< 関東軍軍馬防疫廠と関東軍防疫給水部 >

「100 部隊」と「731 部隊」 1936 年に天皇の命令により細菌戦兄弟部隊として発足  
「馬疫研究処」・「大陸科学院」との関係

< 100 部隊の概要 >

所在地：新京（長春）郊外孟家屯・ 竊

飼育軍馬：実験用軍馬常時 1000 頭を飼育 病馬と中国農民から盗んだ中国馬

隊長 7 代 6 名 ①小野紀道 ②安達誠太郎 ③高橋隆篤 ④並河才三 ⑤高島一雄  
⑥並河才三 ⑦若松有次郎

研究員・高橋雷次郎・斎藤武夫・井田清・小野豊・中村良一・尖戸英男・藤田勝正・阿部・  
三宅忠雄・小林七郎・三友一男・平櫻全作

< 細菌研究 >

炭疽菌 脾脱疽 急性伝染病 2~3 日の潜伏期間 40 度以上の高熱 死亡率 100%

鼻疽菌 單蹄獸の接触感染症 特効薬治療法なし「マイン点眼反応」で発見し殺処分

牛疫菌 牛敗血症ウイルス 急性伝染病 死亡率 70~80%

羊痘菌

赤穂菌

モザイク

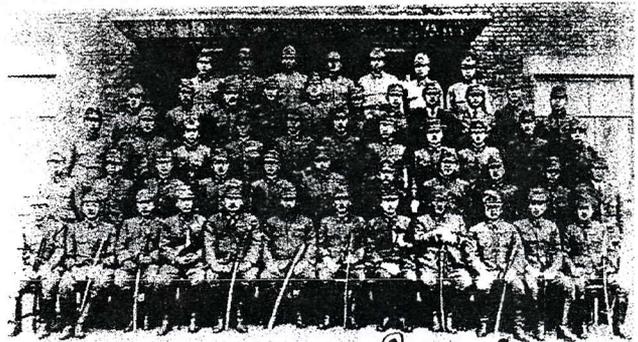


< 人体実験 >

死馬の骨

多量の人骨 图片 11:担任过关东军临时病马收容所所长安達誠太郎供诉,日军 100 部队中设有农事研究室,专门研制针对农作物的染疫细菌。

イタチの最後屁



東亞防疫会議 100 部隊で 昭和 15 年 9 月

(三宅忠雄氏提供)

↑ 第一列右より 石坂九郎  
治次 市井正次 大佐  
並河才三 大佐 尖戸英男 大佐  
大佐 高橋隆篤 大佐 武  
富三郎 少将 田中誠 八郎  
中尉 吉野市郎 少将 一  
人 藤田 田中 佐  
今泉 三郎 大佐  
第二列右より 五人 三平 河  
辺 一 中佐 市岡 朝 彦 大  
佐 若松 有 次 郎 大 佐  
三 友 一 大 佐

< ハバロフスク軍事裁判 >

- ・高橋隆篤・三友一男・平櫻全作
- ・裁判音声を『偽滿皇宮博物院』が入手、公開へ

< 陸軍獣医師の戦後 >

獣医師養成学校：高等農林学校 = 軍馬対象の獣医師緊急養成

敗戦時に帰国した軍馬なし = 日本に患者のいなくなった獣医師 → (人間) の医者へ  
新たな就職先：製薬会社・動物実験・チンパンジー・日本モンキーセンター・動物園  
京都大学霊長類研究所

< 近現代への影響 >

- ・ベトナム戦争「枯葉剤」
- ・鳥インフルエンザ
- ・豚コレラ
- ・加計学園獣医学部新設

<「100 部隊」の謎>

- 隊長のその後は？
- 獣医師・研究員は？
- 科学者・植物学者は？
- 研究データはどこに？
- 戦犯裁判？
- 歴史資料はどこに？
- 責任追及と戦後日本の在り方

三友一男



高橋隆篤

山田乙三

图片 3: 坐在被告席上的 12 名日本战犯。

<長春・偽滿皇宮博物院「100 部隊」の調査研究と新展示>

私どもの課題 = 日本（天皇）の戦争責任・国際法違反の細菌戦の実態解明

- \* 『侵華日軍第 731 部隊罪証陳列館』：731 部隊の追及・調査研究 → 世界遺産登録へ『留守名簿』の刊行により、新たな研究の進展が期待される。

- \* 『偽滿皇宮博物院』：満洲国時代の競馬場跡：長春に生存する馬 33 頭、ここに飼育しているのが長春に生存している馬の全て \* 馬車による荷物運搬は皆無

『侵華日軍第 100 部隊細菌戦陳列館』 100 部隊の調査研究を精力的に実施

今後の課題 = 展示開始 2018. 8. 15 → 12. 13 → 2019. ( . )

『雲南省滇西抗戦記念館』の「100 部隊」展示内容？ 確認調査中

獣医行李第 4 号（深緑箱に赤穂の印）

三、陈列概况

长春市人民政府主办, 东北沦陷史陈列馆承办。东北沦陷史陈列馆基本陈列之一。

按照长春市政府的要求, 在东北沦陷史陈列馆二楼开辟专题展厅, 用以举办侵华日军第 100 部队细菌战史实陈列。展厅面积 1000 平方米, 计划展出文物 800 余件、历史照片 500 余幅, 辅以口述史料、音像资料。计划于 2018 年 12 月初开展。

<哀れ、中国大陆に消えた軍馬の嘶き>

中国大陆へ、列車で、輸送船で送り込まれ、『活兵器』として戦場に駆り出され、荒野に斃れた軍馬。

中国の風土病、伝染病に罹患し、細菌戦研究の実験動物・研究材料として殺された軍馬。

中国大陆を駆け巡り、敗戦時には武器として武装解除され、大陸に遺された軍馬。

中国農民に引き取られ、農耕馬として余生を過ごしたかも知れない軍馬。

敗戦後のどさくさに、食糧難の日本兵に食べられて仕舞った軍馬。

シベリアへ連行され極寒の地で労働の果てに斃れた軍馬。

軍馬や哀れ。軍馬の嘶きに耳を傾け、軍馬の立場から日中戦争の実相に迫りたい。

日本軍・皇軍の愚かな侵略戦争により、犠牲となられた中国人民に心から謝罪し、

真理を探究し、後世に伝えねばならぬ。私たちは『加害民族の末裔』であると。

この自覚を持つために、日中戦争をあらゆる角度から検証し、その真実を知ろう。

中国大陆に果てた 50 万頭の軍馬の嘶きを遙かな時を経て、心の中で聴きながら。